

「私の活動」

宇田川由紀

私は、イオングループで警備業を行っている、イオンディライトセキュリティ株式会社に在籍し、東日本支社業務部管理課で事務主任として従事しております。

作文「私の活動」を通じて、EAPメンタルヘルスカウンセリング講座を受講した動機と、資格取得後に会社においてどのような活動をしているかを述べさせていただきます。

はじめに、私がEAPメンタルヘルスカウンセリング講座を受講した動機についてです。

警備業というのは、警察庁発表の統計からも判るように、全体の警備員総数53万8千人中、女性警備員は3万1千人と5.8%しか従事していない男性中心の業界です。一般的なイメージも同じだと思います。しかし、近年お客様からの要望も増え、女性の活躍が期待されている業界ともいえます。弊社も女性の採用には力を入れておりますが、契約の都合から勤務先によっては、複数名の男性従業員の中に女性従業員が1名という状況です。また、全従業員数から見みると女性従業員は7%前後に過ぎません。さらに女性幹部の教育が遅れており、必然的に男性が上司となってしまいます。

そこで、当時の取締役東日本支社長から、「女性従業員は上司であっても、男性には相談できない問題があり、困っているかもしれないので聞き取りをしていただきたい。」と指示をいただきました。女性従業員の聞き取りを始めると、仕事の悩みだけでなくプライベートの悩みも聞くようになりました。また、男性従業員からも話を聞いてもらいたいとの要望をいただくことも増えてきました。

このころ、私の上司である業務部長から「メンタルヘルス・マネジメント検定に挑戦をして、スキルアップを図ったらどうだ」とのアドバイスをいただきました。メンタルヘルス・マネジメント検定のテキストを読んだところ、ストレス問題や心の健康問題によるトラブル、専門相談機関などの情報から、与えられた仕事を、自分なりにもっと発展させるにはどうしたらよいのかと模索し、カウンセラー学校数校に足を運びました。そしてたどり着いた結果が、このEAPメンタルヘルスカウンセラー講座でした。EAPメンタルヘルスカウンセラーを選んだ理由は、さまざまな観点から弊社に適していると感じたからです。弊社グループには「心の相談窓口」が開設されています。この窓口はピースマインドが請け負っており、EAPメンタルヘルスカウンセラーにより運営されていることを知ることで、より一層興味を持ちました。

続いて、現在の活動となりますが、私が担当する東日本支社の担当地区は、北海道

から神奈川となります。資格取得後は可能な限り、1年に1回は女性従業員のいる勤務先へ現地を担当する事務担当と2名1組で出向き、職場の雰囲気や男性上司には言いつらいことなどを自然体の中で引き出し、現状の問題を把握して上司へ伝えていきます。また、個人的な悩みも聞きます。この活動により、職場の環境を改善し、仕事のパフォーマンスを上げてもらえるように進めています。EAPメンタルヘルスカウンセラーの資格を取得する前と比較して、今では自信を持てるようになりました。

警備員である弊社従業員は、警備業法で定められた弊社が行う法定教育を定期的な受講する義務があります。新入社員に行う法定教育では、勤務先に着任してから3ヶ月後には追加教育として、フォローアップ教育を行っています。このフォローアップ教育では、関東全域にて、新入社員に面談する時間をカリキュラムに導入しており、EAPメンタルヘルスカウンセラーとしての特別枠を組織的に設けていただきました。具体的な例をあげると、エゴグラム診断を活用し、自身の自我を把握して仕事や私生活に活かしていただく話もしています。さらに、普段からマネジメントをされている管理職の方たちとも意見交換ができるようになり、勤務先の従業員とどのように接していくかについての話し合いをしています。

EAPメンタルヘルスカウンセラーは、まだ、社会的な認知度が低いと思われます。しかし、人材を活かす職場を持つ企業では、EAPメンタルヘルスカウンセラーの資格や内容について理解していただきやすいと感じています。そういう点では、弊社は理解だけでなく興味を示しており、その重要性を認識しているので、私自身やりがいを感じられるようになれました。そして、今後は個人一人ひとりの身体と心や精神が健康になる支えとなれるよう努力を惜しまず邁進してまいります。

以上